

# 小木地区賑わい創出プロジェクト

学校法人 大正大学太鼓部・鼓鴨

内海 和奏

横山 香帆

## はじめに

大正大学太鼓部・鼓鴨（以下、「鼓鴨」と省略）は東京都豊島区巢鴨を拠点とし活動する和太鼓部である。当プロジェクトは、小木地区の伝統文化「小木港祭り」の更なる賑わいを通して小木地区の活性化への貢献を志したものであり、8月24～27日の4日間を通して活動した。プロジェクトに際し小木町商工会 小木港祭り実行委員会様、太鼓芸能集団 鼓童様にご協力いただいた。小木町商工会様には活動初日と二日目にお時間をいただき小木港祭りや小木地区について様々なお話しをいただく。また鼓童様には小木港祭りで催される「祭り太鼓」へ鼓鴨の参加を受け入れていただき、活動初日から太鼓の稽古をつけていただいた。3日目（26日）に小木港祭り「祭り太鼓」へ参加し、4日目には活動を通して得た学びやお祭りから実感したことなどの共有を関係者様方と共に行った。

## 1. 活動内容

### ・小木町商工会様との交流と学び

小木町商工会様とは初日にご挨拶と共に交流を行い、翌日は小木港祭りの舞台となる町並みを案内していただいた。小木地区が港町の形成に至るまでの歴史や小木港祭りについて学ぶと共に、フィールドワークでは歴史的背景のお話しと共に案内していただき、現代に残る姿と自然災害が生んだ街並みの変遷を実感した。当日は様々な伝統芸能が木崎神社に奉納されるとお話しいただき、小木港祭りに参加できることに部員一同演奏への想いを一層引き締めた。

### ・太鼓芸能集団 鼓童様との交流と学び

小木地区に拠点を置かれる太鼓芸能集団 鼓童の元では、まず太鼓を叩く精神についてお話しをいただいた。太鼓の音の裏側に抱かれる想いに加え、祭り太鼓では小木地区の方々へ日々の感謝を演奏で伝えられていると知り、鼓鴨としても伝統文化である祭りに参加させていただき感謝を込めて叩いていくことと決める。

稽古では、打ち方の基礎からご指導いただき、祭り太鼓で演奏する「小木まつり太鼓」楽曲の練習を実際の体型で行った。また、鼓童村での全体練習に参加させていただき、地域の方々が小木港祭りへ意気込む姿、熱気、高揚感などを肌で感じると共に、本番前の交流を深めていくことができた。

### ・小木港祭り 祭り太鼓体験

祭り太鼓は26日13時にあゆす会館を出発し、19時頃に木崎神社へ奉納し幕を下ろす。前方では山車の綱を引き、山車の前後について太鼓を計4名で叩きながら小木の町を巡る。門付けの際は小木まつり太鼓を演奏し、地域の方々と和太鼓を通して想いを通わせ、小木地区に一つの輪が生まれていくことを実感した。約6時間かけて小木の町を練り歩くなか、地域の方々から多くの差し入れや応援などのお言葉をいただき、小木地区の伝統文化に鼓鳴を受け入れてくださった。このような人々の温かさは、海を介して多くのものや人を受け入れてきた地域性のように思う。また、小木港祭りでは様々な催しが行われ、子供から大人まで地区が一体となってお祭りを創り上げる姿を拝見する。お祭りは人と人を繋ぐ大切な機会であるが、小木港祭りでは地区一体となって伝統的なお祭りを催し、さらに鼓童様の祭り太鼓で気持ちが一つになっていると実感した。



このような、初の小木港祭り参加で我々が実感したことや得た学びの報告を、活動最終日に、祭り後で小規模となってしまったが小木町商工会様、鼓童様と共に行った。

## 2. 活動の成果

4日間の活動を通して3つの成果を得ることができた。一つ目は、鼓鳴の太鼓技術の向上。鼓童様の元で学び多くの影響を受け、演者としての成長へと繋がった。二つ目は、地域の方、鼓童様との新たな交流。4日間を通して小木港祭りに関わる方含め地域の方々や鼓童様方と交流ができ、今後繋がる新しい関係性を築くことができた。三つ目は小木港祭りの賑わい創出への尽力。鼓童様から鼓鳴の熱気や積極的な姿勢に感謝のお言葉と来年以降の参加のお誘いをいただくことができた。よって2023年小木港祭りの更なる賑わいの創出へ貢献、更には伝統文化に海を介した東京の学生が触れ、体験し、ともに盛り上げることから、伝統文化の賑わいにも貢献できたのではないかと思う。

## 3. 今後の取り組み

更なる小木港祭りの活性化を目指し、我々が実感した素晴らしい地域性の発信が力となると考える。そこで鼓鳴は東京巢鴨での活動を通して、本場を体験したからこそ発揮できる演奏姿勢や実感した地域性を我々の成長と共に広く発信していきたい。小木まつり太鼓は鼓鳴の創部時から演奏させていただく楽曲であるため、本場を体験したからこそ魅せられる姿を今後お見せしたい。そして、来年度の小木港祭りへ再来を果たし、継続的な来島で鼓鳴が関係人口となり小木地区の賑わい創出へ貢献していきたいと思う。